

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	Infinitiveについて : 発達史及び用法, 意味についての研究 <卒論要旨>
Author(s)	横山, 悌志
Citation	広大言語 , 7 : 72 - 73
Issue Date	1967-12-18
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046281">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046281</a>
Right	
Relation	



- Shiro Aoki 著 “The Acoustic Interpretation of the Traditional Articulatory Vowel-Chart & The Three Dimensional Vowel-Chart of Modern Greek Language.”
- Bell Telephone Laboratories 発行小冊子数冊
- その他

## 「Infinitive について」

### — 発達史及び用法，意味についての研究 —

横 山 悌 志

この論文は，序，本論，結論から成る。先ず，序において，She knows how to swim の to swim の用法は何かという疑問を發し，不定詞の發達過程，意味，用法の問題点について，研究するという方針が述べられる。

#### II 本 論

I として「歴史的發達過程について」と題して，不定詞の起源を述べ，次に，Bare infinitive から to infinitive への發展に，目を向けて，發達過程を明らかにし，最後に For+Acc.+infinitive の發達史について述べている。

II として，「疑問詞+不定詞の用法について」，この場合，名詞的用法，形容詞的用法，副詞的用法のいずれにも考えられるので，先に，各々の用法について，検討を行い，その上で，残された問題として，origin その他についての考察が行われる。

III として，「受動不定詞と，受動形不定詞」について，歴史的考察を行った上で，現在の用法，意味について，両者を比較している。

#### III 結 論

不定詞は，その起源においては，屈折を備えた名詞であった。その事が，現在に及ぼしている影響は，大きい。それ故に，この論文では，歴史的發達過程を重視した。更に，最初の疑問である，名詞，形容詞，副詞的用法の分類については，不定詞の実体をつかもうとする場合，それらの間に，明確な一線を引くことは，無理ではないかと，結論づけられている。

#### 参考図書

英語發達史	中 島 文 雄	岩 波 全 書
不 定 詞	小 川 三 郎	研 究 社

不定詞・動名詞	石橋 幸太郎	大修館書店
英文法研究	市河 三喜	研究社
言語学論攻	泉井 久之助	敵文館
文法の原理	O. Jespersen 半田 一郎 訳	岩波書店
Syntax; G.O. Curme (Heath)		
A Handbook of English Grammar; R.W. Zandvoort		
(Longmans)		
Essentials of English Grammar; O. Jespersen		
(Allen & Unwin)		
A Modern English Grammar on Historical Principles III, V;		
[M.E.G] O. Jespersen (Allen & Unwin)		
A New English Grammar II; [N.E.G] H. Sweet (Clarendon		
Press)		
(文責 藤原彌生)		